

# 2020 年度 全体会議 議事録

日時 2020 年 12 月 8 日（火）18:00～19:30

会場 エコパルなごやバーチャルスタジオ

出席者：総出席者 18 名（別紙全体会出席者名簿参照）  
・ 実行委員 10 名（学長、実行委員）  
・ 関係者 8 名（チーム員、アドバイザーボード）

鳥羽事務局長の司会で、定刻に開始。

## 1 開会

### 【学長挨拶】

パンデミック COVID-19 による対応に追われて、何かを蓄積したり何かを伝えたりしたという実感が乏しいのが私個人の感想です。

感染症がさまざまな形で人類の文明を動かしてきたのはまぎれもない事実。例えばルネッサンスがなぜ起きたのか。14 世紀にペストを持ったモンゴル軍がヨーロッパに侵入したことによりヨーロッパ人の 3 分の 1 が亡くなり、中世が瓦解してルネッサンスにつながり近世が訪れた。近世が近代になったのも感染症が関係している。我々が宇宙にロケットを飛ばすのと同じ気持ちで新大陸を発見し、ヨーロッパ人が新天地を求めてアメリカ大陸に渡り、免疫のなかったインディオが感染症で亡くなり、ブーメラン現象でインディオ由来のコレラがヨーロッパに入ることによって労働者階級を直撃した。都市の下水道等の整備が行われて近代につながる。

我々は今コロナに追われているが、少し視線を向けるとコロナの次にどんな時代がくるのか。これはコロナ以前に環境関係の知識を持った賢者たちが盛んに言っていたことではあるが、トランスフォーマティブ・チェンジを起こさなくてはならない。社会的大変容が起きるに違いない。大きな文明の変化が起きるに違いない。奇しくもコロナによって早まった。そのキーワードは「持続的な未来」。EU がグリーンリカバリーという言葉を使ってポストコロナの時代を新たな持続的な未来を切り開けるひとつの政策なり、技術的な展開なり、成果としての経済成果を享受しようとしている。遅らばせながら我が国で 2030 年にカーボンニュートラルを目指す政策が前に出てきたのもこうした一環であろう。今は「コロナと経済」が重要な課題と言われているが、いずれ来年になれば「環境と経済」の関係をどういうふう考えていくんだという話にならざるを得ない。市民生活には大きな転換、行動変容を期待することになる。

「なごや環境大学」が市民に向けて果たす役割はきわめて大きいものになってくる。今年 1 年大変ご苦労された実行委員会の皆さまも、心を一つにして新たな時代に向

けて、我々の責務や役目というものがかなり大きいものだということをご理解いただきながら、アフターコロナの時代を創り上げていっていただきたい。

## 2 議題

### (1) 各実行チームの2020年度上半期の振り返りについて 【議題資料 1P～8P】

ここから涌井学長が議長役として議事進行を行う。

「議題資料」に基づき各チーム代表者から説明が行われる。

野中委員（企画チーム）・・・（議題資料 P1-2）

議案集のとおり。

杉野委員（人の環・広報チーム）・・・（議題資料 P3）

議案集のとおり。

事務局（ユースクラブ）・・・（議題資料 P4）

議案集のとおり。

事務局（森林プロジェクト）・・・（議題資料 P5-6）

議案集のとおり。

千頭アドバイザーボード/大鹿委員（SDGs 未来創造クラブプロジェクト）・・・（議題資料 P7-8）

議案集のとおり。

#### <涌井学長コメント>

森林プロジェクトで岐阜県立森林文化アカデミーとの連携を進めていただいているが、今年の6月に morinos（モリノス）という建物ができる。学生が設計をして隈研吾に監修してもらった。ドイツのロッテンブルグ林業大学との教育連携にはじまり、ハウス・デス・ヴァイデス（森林環境教育施設）をモデルに誕生した。幼児から大人まで全世代型の環境教育の場である。ぜひご覧いただきたい。上下流の交流という形。供給と消費。交流から更に、相互に関係する対流現象という形になるようなごや環境大学と森林文化アカデミー両方の学長として皆さまのお力をお借りしたい。

今回のSDGsの試みは、実際のフィールドで浸透を図ろうという非常にまれな取組みであり、全国が着目しているのではないかと。ぜひ成果を皆さんに公開してもらえればと思う。私も本当であれば10月に生物多様性条約締約国会議が中国で開かれ、ポスト愛知目標の議論がされるはずであったが、コロナにより来年の5月に延期になり、さらに5月もあやしく、2020年は来年の10月に終わるのでは？と言われている。生態系サービスはかなり失敗している。そういった中で、SDGsの取組みと同時に我々が最も重要視しているのは「ユース」。

我々が彼らの生きシロを奪ってしまっているのではないか。グレタ・トゥーンベリさんの抗議を受けてその通りだと思うが、ユースの世代をどれだけ育てられるかが重要。現在皆さんが取り組んでいただいていることに大変敬意を表します。

#### <須網委員>

なごや環境大学は、今まで環境の分野を中心に取り組みをやってきたが、今回SDGs未来都市に認定され、なごや環境大学で具体的な取組をやることになった。環境も含め「まちづくり」まで手を広げることができたのは、活動1年目としてファーストステップの成果と思っている。取組を深めていきたい。

「ユース」の人づくりの方は対象の子どもたちがちょうど2030年には世の中の第一線に立つ。国からは2年という縛りはあるが、引き続きなごや環境大学の中で深めていきたい。

### (2) 2020年度 中間決算について

【議題資料 9P】

「議題資料」に基づき2020年度中間決算について事務局から説明が行われた。

挙手にて了承。

### (3) 「なごや環境大学の今後の進め方」に関する検討会議について

【議題資料 10P】

議案集のとおり。

#### <意見>

##### <涌井学長>

もうそろそくなごや環境大学の枠組みも相当見直していかないと、大学の持続性すら危うい感じを持っている。様々な刷新については大賛成である。経過をご存じであろう千頭さんご意見ございませんか。

##### <千頭アドバイザーボード>

スタート時は、なごや環境大学が、社会のあり方を一緒に考えながら示していこうという思いがすごくあった。これからのことを考えたときに、個々の講座等も大事だが、SDGsは「未来のなごやのまち」はこうあるべきという議論をいろんなところで起こし、17の目標に合わせたまとめに向かって大きな方向性を示すことが大事。なごや環境大学が、これからの「持続可能ななごや」とはこんな姿だということをネットワークの中できちんと議論し、先頭に立って

社会を動かしていくという意味での存在感を持って示していくべきではないかと思う。

< 涌井学長 >

創設以来、志をどのように受け継いでいくのかという不易の部分。一方、企業等も ESG 投資等環境に寄り添わないと成り立たない等、環境に対する理解と認識も深まりつつある。不易は不易として、周辺の状況変化に合わせて立ち位置や、プログラム、また時代の流行にもしっかり答えないと、自尊心だけ高くなっても市民と乖離してしまう可能性もある。この辺りのことをしっかり捉えていただいて、ぜひここで総さらえする検討会議の実施は大変よいことである。

挙手にて賛同。

#### (4) その他

緒方実行委員が一身上の都合により、委員をやめられたことを報告。

議案のすべてが了承されたことを確認し、終了。

### 3 閉会

本日の予定がすべて終了したことを伝え閉会。

以上